



ハーバード公衆衛生大学院日本人会主催ジャパントリップ 2016
開催趣意書

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

私たちは、米国ハーバード大学公衆衛生大学院(Harvard T.H. Chan School of Public Health: HARVARD CHAN)に在籍しております、日本人大学院生・研究者です。本学は、医師、歯科医師、公的機関、NGO などでの実務経験を経た学生が多くを占める高等教育機関です。このたび、私たちが中心となって企画・準備を進めている「ハーバード公衆衛生大学院日本人会主催ジャパントリップ 2016」につきまして、ご支援を賜りますよう、お願いさせていただき所存です。

「同じ病気にかかった人たちは、みな同じ運命をたどるだろうか。」私たちの学びや実践の原点はこの問題意識にあります。同じ病気にかかっても、貧富などの社会状況、生活環境、文化、地理的条件、帰属する社会の保健医療制度などによってその人の運命は大きく変わります。私たちが学ぶ「公衆衛生(パブリックヘルス: Public Health)」は、人々が関わる社会状況、生活環境、保健医療制度ならびに事業、社会保障および社会福祉など、医学・医療が社会とかわる領域を中心とします。病気の人一人一人を対象とするのではなく、人びとの集まりとして社会を見ていく点に特徴があります。

私たちハーバード公衆衛生大学院日本人会は、「Aging Society (高齢化社会)」をテーマとしたジャパントリップを開催することといたしました。本学の大学院生 15 名ほどを連れて日本のパブリックヘルスを現地視察するもので、今回で 9 回目を迎えます。年々進みゆく少子高齢化に直面している日本では、相当する社会保障・医療システムの充実が必至であり、限られた人的・経済的資源を効果的・効率的に活用することが求められています。また、先進国における急速な高齢化は深刻であり、この社会にどのように対応していくかは、先進国のみならず世界的な課題であります。こうした問題を実際に見ることでさらに深く探ることは、まさに私たち次世代のグローバルリーダーにとって貴重な学びの場となります。

私たちは、このジャパントリップを、

1. 公衆衛生分野での将来のリーダーとなる学生の意識醸成の場
2. ハーバード大学の学生が、日本の医療制度や日本文化に関する知識と理解を深める場
3. ジャパントリップの趣旨にご賛同いただきました皆様方と将来のグローバルリーダーとなりうる学生のネットワークの場

と捉え、実現したいと考えております。

ジャパントリップの参加者の多くは帰国後「日本びいき」になると聞いています。多くの学生から今年の開催を希望する声が聞かれ、私たちもその期待の声を励みに、実行委員全員で企画運営に取り組んでおります。

御多用の折、甚だ恐縮に存じますが、本企画の重要性をご理解、ご賛同いただき、格別のご支援とご協力を賜りますようお願いする次第です。

敬具

ハーバード公衆衛生大学院日本人会主催
ジャパントリップ 2016 実行委員会



Harvard T.H. Chan School of Public Health
Student Club of Japan
Japan Trip 2016 Organizing Committee

記

テーマ Aging Society 『高齢化社会』

日程 2016(平成 28)年 3 月 13 日(日)~19 日(土)6 泊 7 日

参加者 ハーバード大学公衆衛生大学院の学生・研究者等 20 名程度
日本人引率者 3 名(予定)

アドバイザー イチロー・カワチ教授 ハーバード公衆衛生大学院社会行動科学学部学部長
マイケル・ライシュ教授 ハーバード公衆衛生大学院武見国際保健プログラム

主な訪問先(予定)

東京:

日本医療政策機構 黒川清先生講義拝聴、
厚生労働省表敬訪問、
東京都下における在宅医療見学、
ハーバード大学 Ichiro Kawachi 教授講義拝聴、
その他(日本文化体験、芸術鑑賞等)

京都:

京都大学 福原俊一教授講義拝聴“building a resilient health system after a massive disaster”

三重:

三重県 鈴木英敬知事表敬訪問、
伊勢神宮見学、
ハーバード大学 Rifat Atun 教授講義拝聴、
その他(日本文化体験、芸術鑑賞等)

以上

ハーバード公衆衛生大学院日本人会主催
ジャパントリップ 2016 実行委員会



ジャパントリップの軌跡

「日本のケースは取り上げたくても出来ない。なぜなら、英語の情報があまりにも少ないからだ」

未来の公衆衛生分野でのリーダーを育成するハーバード公衆衛生大学院の中で最も人気のある授業の一つである、先進国の保健医療システムについて学ぶ授業での教授のこの一言が、当時の日本人在校生らの心を動かしました。このことがきっかけとなり、HARVARD CHAN ジャパントリップは始まりました。

タフな課題や試験が学生に課される中、「日本の事を様々な背景を持つ同級生に知ってもらいたい」との強い思いの基、本トリップは日本人留学生の他、本校に在籍する日本人研究者によって、完全にボランティアで企画・運営されています。

第 1 回	2006 年 3 月 (7 泊 9 日) 外国人学生 38 名 日本人学生 9 名	東京(厚生労働省、聖路加国際病院など)、豊田(トヨタ自動車、トヨタ記念病院)、京都(文化財見学など)
第 2 回	2007 年 3 月 (6 泊 8 日) 外国人学生 24 名 日本人学生 8 名	東京(厚生労働省、特別養護高齢者施設など)、豊田(トヨタ自動車)、長野(佐久総合病院など)、大阪(大阪大学、あいりん地区など)、京都・広島(文化財見学、広島平和記念資料館など)
第 3 回	2008 年 3 月 (7 泊 9 日) 外国人学生 24 名 日本人学生 10 名	東京(厚生労働省、日本医療政策機構、築地市場など)、長野(佐久総合病院)、豊田(トヨタ自動車)、大阪(あいりん地区など)、京都・広島(文化財見学、平和記念公園など)
第 4 回	2009 年 3 月 (7 泊 9 日) 外国人学生 46 名 日本人学生 9 名	東京(厚生労働省、国立国際医療研究センター、国立ハンセン病資料館、訪問看護ステーションなど)、沖縄(「長寿村」、診療所、高齢者用グループホーム・デイサービスなど)、大阪(保健福祉センター、あいりん地区など)、京都(文化財見学)
第 5 回	2010 年 3 月 (6 泊 8 日) 外国人学生 20 名 日本人学生 10 名	長崎(離島医療見学、長崎原爆資料館など)、大阪(あいりん地区、検診クリニック、母子保健包括相談センターなど)、東京(厚生労働省、築地市場など)
第 6 回	2012 年 1 月 (8 泊 10 日) 外国人学生 15 名 日本人学生 5 名	東京(厚生労働省、訪問看護ステーションなど)、石巻(石巻日日新聞、石巻市立病院など)、大阪(WHO 神戸センター、あいりん地区など)
第 7 回	2013 年 3 月 (8 泊 10 日) 外国人学生 15 名 日本人学生 5 名	東京(厚生労働省、訪問看護ステーションなど)、岡山県(岡山県知事、岡山県福祉保健部、岡山県医師会、高齢者保健施設、岡山県総社市における福祉政策講義など)
第 8 回	2015 年 3 月 (9 泊 10 日) 外国人学生 15 名 日本人学生 5 名	国連防災会議参加、宮城県知事表敬、宮城県医師会、祐ホームクリニック、石巻日日新聞見学、大川小学校訪問、在宅介護他業種協力の見学、市長との懇談

過去の参加者の声

- > I felt very honored that the Minister of Health gave us a few minutes for his busy day.
厚生労働大臣が忙しい中、私たちのために時間を割いて話をしてくれた事がとても嬉しかった。
- > Throughout staying in Japan and experience traditional Japanese culture, I realized that Japanese traditional diet of mainly fish, vegetables and rice contributes to longevity in Japan.
日本に滞在し、日本の伝統文化を体験する中で、魚、野菜、そしてお米を中心とした日本の伝統的な食文化が日本の長寿を支えているのではないかと思った。
- > Not only good health care system but also cultural factors play a very important role for sustaining longevity of Japanese people.
素晴らしい保健医療システムだけではなく、日本文化が日本の長寿を支える重要な役割を担っている、と感じた。
- > It is something I would never have done in my lifetime otherwise, and I'll remember it forever!
人生の中で忘れられない思い出になった!